

高等学校

平成26年度

# 教育研究員研究報告書

芸術（音楽）

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	3
III	研究仮説	4
IV	研究方法	4
V	研究内容	5
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

## 研究主題

# 生涯にわたり音楽を愛好する心情の育成を図るための授業の在り方

－学習活動を支える「思考力・判断力・表現力」を育むための指導と評価の工夫－

## I 研究主題設定の理由

本部会では研究主題を「生涯にわたり音楽を愛好する心情の育成を図るための授業の在り方－学習活動を支える「思考力・判断力・表現力」を育むための指導と評価の工夫－」とした。

音楽の目標達成のためには「学力」が不可欠であることは言うまでもない。「学力」は平成 19 年に改正された学校教育法の学校教育法第 30 条第 2 項に示され、本規定は学校教育法第 62 条にて学校教育法第 30 条第 2 項の規定を読み替え準用することが示されている。ここには、学力の重要な三つの要素が示されている。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能
- 2 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 3 主体的に学習に取り組む態度

この学力を平成 15 年の中央教育審議会答申で示された「確かな学力」の定義と比べると、「学ぶ意欲」という文言が「主体的に学習に取り組むこと」に変更され、この文言には「意を用いなければならない」として指摘している。「主体的」に取り組む態度自体も「学力」としていることに注目したい。学校教育法で示された学力観と、音楽の目標、そして平成 22 年度の東京都教育研究員高等学校芸術（音楽）部会報告書における「確かな学力」を踏まえて、本部会では新たに音楽の「学力」について次のように定義した。

- 学力 1 創造的な表現活動や鑑賞活動に必要な基礎的・基本的な知識及び技能と音楽文化の理解  
学力 2 必要な知識・技能を活用し、感性を働かせて、よりよく課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力  
学力 3 主体的に学習に取り組み、生涯にわたり学習していく基盤を構築して、音楽を永続的に愛好し続ける関心・意欲・態度

また、本部会では平成 24 年度の東京都教育研究員高等学校芸術（音楽）部会報告書から教科等における「思考力・判断力・表現力」の定義を再検討し、次のように定義した。

- 思考力…音楽を形づくっている要素を視点として、音楽的な経験を踏まえ、よりよい音楽表現や表現意図となるように「考えていく力」。  
判断力…よりよい音楽表現や表現意図となるように、分析・比較・評価・解釈等をした内容を、自らにとって価値あるものとして「取捨選択できる力」  
表現力…思考・判断した音楽表現や表現意図などを「創造的に表していく力」

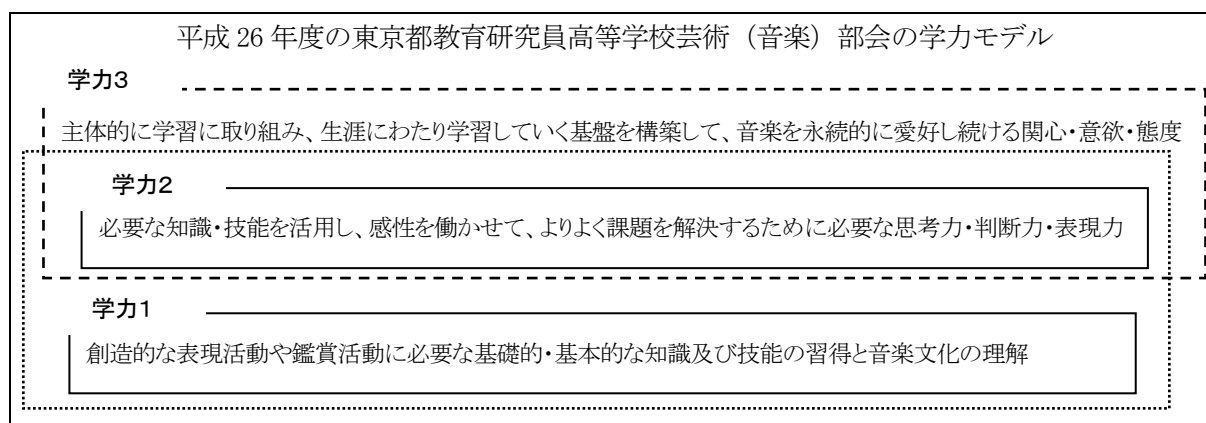
本部会では、「思考力・判断力・表現力」について述べている学力 2 を中心的な学力として位置

付けた。「思考力・判断力・表現力」を育むことで、それが学力全体の原動力となり、学力1、学力3の伸長にも影響を与えることが期待されるため、学力2の育成に主眼を置いていく必要がある。

学力2と学力1、学力3には次のような関係があると考えている。

例えば学力2と学力1との関連で考えると、「基礎的・基本的な知識」や「音楽の文化」を暗記したり、「基礎的・基本的な技術」を身に付けたりするだけでは、学力1の達成は十分とは言えない。学習した「基礎的・基本的な知識及び技能」が別の場面においても有効に活用されることが必要となる。そのため「基礎的・基本的な知識及び技能」は、体系化されるように学び、いつでもこれらを適切に活用し、与えられた課題について「思考・判断」して、よりよく「表現」（解決）することが必要である。また、「基礎的・基本的な知識及び技能」が不足しているため課題解決を図ることができない場合には、新たな知識や技能を獲得していく必要性に気が付いたりする「思考力・判断力・表現力」は重要である。

次に学力2と学力3との関連で考える。学校に在籍している間で学習できる知識や技能は、現代社会で活用されているものに比べればごく基本的で限られたものである。学校で学習できた知識や技能を基に、最新の成果や技能を更に習得していく必要があり、自ら主体となって獲得していく努力をしなければ変化の激しい社会の中で対応していくことが困難になっていく。また、これからの社会は異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。このように子どもたちがこれから迎える変化の激しい現代社会においては、相手の良さやその良さを生み出す文化、歴史を知ることなど、自ら主体的に学び続ける必要がある。その基盤となるのが学力1と同様に、知識や技能を新たに獲得していくことに気が付いたりする「思考力・判断力・表現力」である。



更に学力全体の原動力となる「思考力・判断力・表現力」を伸ばしていくことで、例えば、「これまでの自分の経験や学習だけで問題を解決しようとする」段階から、「友達や先生の援助を受けてよりよい解決方法を採用する」段階、「複数の解決方法を調査し、検討し、試みて、解決にふさわしい方法を採用する」段階など、より幅広く、豊かで、深化した学習を行うことができるようになる。このような深まった学習体験は、「思考力・判断力・表現力」の伸長が促されるばかりでなく、音楽で言えば、「音楽への関心・意欲・態度」が深まり、「生涯にわたり音楽を愛好する心情の育成を図る」ことにつながっていくと考えている。

以上、見てきたように三つの学力はそれぞれ重要なものであるが、その中でも学力1と学力3

をつなぐ学力2、特に「思考力・判断力・表現力」の育成が、このモデルで示した学力の向上には特に重要な要素であることが分かる。実際の授業では学力2のみの指導に偏るのではなく、授業展開の中で学力1、学力3にも重点を置くことで、三つの学力が互いに影響し合い一体的に高まっていくことが期待される。そのため取り上げている題材の中で学力1、学力2、学力3に該当するものは何なのか、どこを重点とするのか、など教員が考えていくことが必要となる。

学習場面においては、学力1が主に「習得」場面、学力2が主に「活用」場面、学力3が主に「探究」場面对応しているが、それぞれの活動場面が組み合わさることで三つの学力が一体的に高まることが期待できる。そのため学習活動を設定する上でもその点について留意する必要がある。

また、その他にも注意すべきことがある。教員が「思考力・判断力・表現力」を伸ばさせる指導を意図したとしても、学習途中の形成的評価や、学習後の総括的評価を適正に行わなければ、生徒たち自身は身に付いた力を客観的に確認することができない。そのため生徒は、自らの学習活動について肯定的な態度を形成しづらくなり、結果として学習効果が十分に期待できなくなる。よって、生徒が客観的に自己を肯定的に評価できる評価方法についても検討していく必要がある。

このように本部会では研究主題に「生涯にわたり音楽を愛好する心情の育成を図るための授業の在り方ー学習活動を支える「思考力・判断力・表現力」を育むための指導と評価の工夫ー」と掲げ、子ども達の「思考力・判断力・表現力」を伸ばす指導方法・評価方法を確立する授業づくりが欠かせないと考えて本研究主題を設定した。

## II 研究の視点

本部会の研究は、「思考力・判断力・表現力」を育むための指導及び評価方法を検討し、実践的な研究を行う。「思考力・判断力・表現力」の育成には中央教育審議会答申の活動例からも整理できるように「言語力」が重要な要素となっている。この「言語力」について、平成19年8月に中央教育審議会に報告された言語力育成協力者会議の「言語力の育成方策について（報告書案）」で次のように示している。

言語力は、知識と経験、論理的思考、感性・情緒等を基盤として、自らの考えを深め、他者とコミュニケーションを行うために言語を運用するのに必要な能力

「言語力」を伸ばす方策については平成26年に文部科学省から出された「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」の「第3章 言語活動を充実させる指導と事例(2) 教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項」では「思考力、判断力、表現力」等に係る力を育むために、それにふさわしい言語活動をどの場面で行うのか等を、各教科・科目等の指導計画に明確に位置付けることを求めている。そのため実際の指導においても言語活動の工夫が必要である。

そこで本部会では、生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を図るために、「思考力・判断力・表現力」の育成が意図された年間指導計画、学習指導案、また授業展開によってはワークシートを作成していく方策を考えた。また、生徒が思考したり、判断したり、表現したりした学習活動が適正に評価されることで、生徒が自ら思考したり、判断したり、表現したりする学習の意味を肯定的に捉え、正しく理解することができるようになるため、その効果的な評価方法についても工夫を行った。

### Ⅲ 研究仮説

教員が年間指導計画及び学習指導案やワークシートを作成する段階から「思考力・判断力・表現力」の育成を意図することで、生徒が主体となった思考・判断・表現する学習が展開される。

また、生徒が自ら思考したり、判断したり、表現したりする学習活動に対して適切な評価がなされることで、学習する意味を理解し、学習意欲が喚起される。

### Ⅳ 研究方法

年間指導計画や学習指導案、ワークシートを作成する段階で、意図的に設定した「思考力・判断力・表現力」を育成する場面が有効に機能しているか、生徒が記入した内容や観察等から見取った教員の評価を通して、その成果を検証する。その際、「思考・判断・表現」しながら課題解決を図る学習や適切な評価は生徒の学習意欲の高まりにつながることも検証する。

実践事例1では、本部会が作成した年間指導計画に基づいた授業実践の例を提示する。

実践事例1 音楽を形づくっている要素を視点に「思考力・判断力・表現力」を育成する内容が位置付けられた年間指導計画に基づいた授業事例

また、2つの方策を用いた授業展開の実践事例を提示する。

実践事例2 音楽活動をしている中に「思考力・判断力・表現力」を育成する場面を設定した授業事例

実践事例3 題材全体を通して「思考力・判断力・表現力」を育成する場面が意図された授業事例

この2つの授業展開については、意図的に設定した「思考力・判断力・表現力」を育成する場面が有効に機能しているか、生徒が記入したワークシートの内容や授業の観察等から見取った教員の評価を通して、その成果を検証する。

また、実践事例3については、「思考・判断・表現」しながら課題解決を図る学習や適切な評価は生徒の学習意欲の高まりにつながることを、生徒が作成したワークシートの内容や観察等から見取った教員の評価、生徒の自己評価を通してその成果を検証する。

## V 研究内容

### 1 研究構想図

全体テーマ **思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善**

高校部会テーマ **思考力・判断力・表現力等を育むための指導と評価**

#### 各教科における「思考力・判断力・表現力」の育成の現状と課題

年間指導計画の書式が「思考力・判断力・表現力」に関する記載のできるものでなかったり、評価の観点の記載欄に評価の観点とは関連のない記載がなされていたりすることが散見される。授業においても教員が表現意図や工夫を提示し過ぎたり、楽曲や演奏の解釈について説明し過ぎたりするなど、生徒が主体的に思考・判断・表現する学習活動が十分ではない指導がなされている。学習評価においては、教員の示した知識や技能の習得を重視する傾向にあり、観点ごとの評価のバランスが適切に図られていない。

#### 課題

- 1 「思考力・判断力・表現力」が高められるように意図された年間指導計画が必要である。
- 2 「思考力・判断力・表現力」の育成の観点を意図した授業づくりが必要である。
- 3 学習状況を適切に評価できる評価方法の工夫が必要である。

**【芸術（音楽）部会主題】**生涯にわたり音楽を愛好する心情の育成を図るための授業の在り方  
—学習活動を支える「思考力・判断力・表現力」を育むための指導と評価の工夫—

#### 仮説

年間指導計画に工夫を加えることで「思考力・判断力・表現力」の育成が意図され、高められる。また、「思考力・判断力・表現力」の育成が意図された学習指導案を作成することで、生徒が主体となった思考・判断・表現する学習が展開される。学習に対して適切な評価がなされることで学習意欲が喚起される。

#### 具体的方策

- ・年間指導計画の中で、音楽を形づくっている要素を計画的に配置し、指導することで、生徒が新たに習得した「知識・理解」や「技能」が生徒の知識体系の中に組み込まれ、それらを活用して創造的に「思考・判断・表現」して課題解決できるようになる。
- ・学習指導計画を作成する段階で、意図的に「思考力・判断力・表現力」の育成を図る場面を、それぞれの題材に応じた方法で実施することで、生徒が主体となって思考し、判断し、表現する授業が実践され、生徒の「思考力・判断力・表現力」が伸長される。
- ・観点別評価を確実に実施し、評価方法を組み合わせることによって、生徒が思考・判断・表現した学習活動を適切に評価することができ、その結果、学習意欲が向上する。

#### 検証方法

- 1 意図的に設定した「思考力・判断力・表現力」を育成する場面が有効に機能しているか、生徒が記入したワークシートの内容や観察等から見取った教員の評価を通して、その成果を検証する。
- 2 「思考・判断・表現」しながら課題解決を図る学習や適切な評価は生徒の学習意欲の高まりにつながることを、生徒が記入したワークシートの内容や観察等から見取った教員の評価、生徒の自己評価を通してその成果を検証する。

## 2 「思考力・判断力・表現力」の育成を意図的に図るための年間指導計画作成例

平成24年度の東京都教育研究員高等学校芸術（音楽）部会報告書では、「Ⅶ 今後の課題 3 年間計画の重要性」として、以下のように示している。

年間を通して、あるいは3年間を見通して、どのような思考力・判断力・表現力を身に付けさせ、活用させるのかを検討した上で、音楽を形づくっている要素の蓄積を図る必要がある。そのためには詳細な年間指導計画の作成が必要である。

平成24年度の東京都教育研究員高等学校芸術（音楽）部会では、残された課題の一つとして年間指導計画の重要性を挙げている。本部会でも検討を重ねていく中で生徒が音楽の「知識・技能」を身に付けたり、「思考力・判断力・表現力」を伸ばさせていったりするためにも、この年間指導計画が重要になると考えた。

そこで、まず年間指導計画の現状を把握するため、本部会で無作為に選んだ都立高校30校の年間指導計画の調査・分析を行った。その結果、「題材名」「指導項目」などの「題材のまとめ」を示したものの、「学習内容」「指導内容」「授業内容」などの実際に学ぶ「内容」を示したものの、「評価方法」「評価の観点」「評価のポイント」などの「評価」を示したものの、以上の3項目については何らかの表記が全ての学校でなされていた。これらの3項目は授業成立には欠かせない必須の要素ではあるが、各項目を更に確認していくと課題がある学校も見られた。例えば、「評価方法」の記載内容に「出席・遅刻」や「忘れ物」、「プリント等」を挙げている場合である。これらの評価方法を採用している学校では、他の複数の評価方法を組み合わせて実施はしているが、この評価方法で何を見取るのか、といった何らかの観点の記載がないと採用した意図は読みとれない。また、「表現」領域の評価の記載はあるが、「鑑賞」領域に触れていないものや、「評価の観点」の項目に「実技試験」や「筆記試験」と記載されているものなど、「評価の観点」と「評価の方法」とが混同されている場合もあった。

「評価の観点」については、平成22年5月に文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」が通知されているが、学習評価の改善について基本的な考え方として「学習指導要領に示し目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施していくこと」を求めている。特に音楽においては、4項目示されている評価の観点のうち表現領域では「音楽表現の創意工夫」が、また鑑賞領域では「鑑賞の能力」が「思考力・判断力・表現力」の育成と関連する評価の観点となる。そのため、全ての題材でこの2項目の観点のどちらかを明示することが必要となろう。しかし、本調査では題材ごとに「評価の観点」を示した年間指導計画を作成している学校はなかった。

また、「目標」にあたる題材ごとの「学習目標」「指導目標」の記載についても、30校のうち22校(約72%)で内容を確認することができたが、8校(約28%)にあたるに学校には題材ごとの記載がなく、年間をまとめた形で示しているケースも見られた。更に「学習内容」の項目に、「曲目」やリコーダーなどの「楽器」名だけが列挙されている場合もあった。

これまで見てきた事例は多くの学校ではないが、題材ごとの「目標」や「学習内容」、「評価」が明確になっていなければ、それらを組み合わせて作り上げられる年間指導計画が意図的、計画的になることはない。効果的な指導を実施するため、年間指導計画の指導内容や活動を意図



的、計画的に配置したものの方が、新たに習得した「知識・技能」がこれまでの既習事項と関連付けられ、学習の成果が定着しやすくなり、生徒の中で知識体系が構築されやすい。更に学習を進めるごとに再構築され続けていく知識体系を活用することで、より創造的に「思考・判断・表現」して課題解決することが期待されるため、丁寧な年間指導計画の作成は教科の目標を達成する上で大変に重要なことが分かる。そこで本部会では年間指導計画の調査・分析の成果を生かし、次の視点を留意した年間指導計画が必要と考えて一例を作成した。

第1に、「思考力・判断力・表現力」を育む方法として言語活動を明確に位置付けた。音楽はもともと音を媒介してコミュニケーションを図ることが本質ではあるが、授業の中で生徒相互が言語によって伝え合う活動を位置付けることで、仲間とともに創意工夫しながら音楽表現をする喜びを味わうことができるようになる。また、言語力は、知識や経験の蓄積、論理的思考をする上で欠かせないものであり、「思考力・判断力・表現力」を育むためにも不可欠となる。そのため学習活動だけでなく、言語活動もどのように行っていくのか、意図的、計画的に年間指導計画の中に位置付けた。

第2に、学習指導要領では、「知覚された音楽を形づくっている要素から、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること」を全ての音楽活動を支える仕組みとして位置付けている。表現や鑑賞活動を行う中で音楽を形づくっている要素を視点としながら学習することで、より一層、思考したり、判断したり、表現したりしやすい学習が展開され、「思考力・判断力・表現力」の伸長も図られることから、その視点も年間指導計画に取り入れた。

第3に、題材が年間指導計画の中で主に「知識・技能」を身に付けていく習得の段階なのか、それらを活用して「思考・判断・表現」しながら課題解決を図る活用段階なのか、課題を自らが設定して課題解決を図る探究段階なのか、この3つの段階を意図的、計画的に位置付けることとした。これによって学習段階を踏まえ、応じた「思考力・判断力・表現力」の育成が図られると考えたが、本来この3段階の指導は全ての題材で行われることで、より一層「思考力・判断力・表現力」の伸長が図られるため、本年間指導計画では重点としたいものだけを表記した。

最後に「音楽Ⅰ」で取り扱う活動領域には「歌唱」、「器楽」、「創作」の「表現」領域と「鑑賞」領域があるが、「音楽Ⅰ」では、音楽に対する総合的な理解を深める観点から、全ての活動領域を網羅し、特定の活動の偏りがないようにすることが求められている。そのため活動だけでなく、取り上げられる楽曲の教材も、郷土の音楽、伝統音楽を含む我が国及び諸外国の過去から現在に至るまでの音楽を、幅広く取り扱うようになっている。更に、音楽は国、地域、風土、人々の生活、文化や伝統などの影響を受け、生み出され、育まれてきたものであるため固有の価値がある。こういった固有の価値がある音楽を味わったり、親しんだりするためには、歌唱や鑑賞の活動をすることに止まらず、音楽の歴史的文化的背景を理解することなど、一つ一つの教材で触れていく内容は幅広い。このように、音楽は多様な楽曲を取り上げ、活動を行っていくことが、生徒が音楽の多様性を理解し、音楽的視野を広げ、ひいては音楽文化について理解を深めていくことにつながっていく。

以上、これらの幅広い観点を網羅するためには新しい年間指導計画の書式が必要となると考え、新しい書式に基づいた年間指導計画案を作成した。

年間指導計画（提案例）

月	題材名	学習の目標	○学習内容等	音楽を形づくっている要素		
				音色	リズム	速度
4	オリエンテーション ～高校音楽の授業を楽しく学ぶために～ 【習得】	二部合唱で合わせる楽しみを味わいながら高校の音楽学習への意欲を養う。また、音楽を形づくっている要素について関心を持つ。	[表現A歌唱] ○歌唱(斉唱・二部合唱)  自己のイメージを他者とコミュニケーションを図りながら共有する。  <教材> 校歌・「手紙」	二部合唱にふさわしい声の音色	シンコペーション付きの8ビート曲のリズム	
5	歌曲の世界 ～独唱①～	曲想と歌詞の内容との関わりやその背景との関わりを踏まえながらイメージをもって歌唱する。	[表現A歌唱] ○斉唱  自己のイメージを他者とコミュニケーションを図りながら共有し、更に発展させる。  <教材> 「O' sole mio」「浜辺の歌」			曲想に合った速度を感じ取り表現に生かす
5	器楽の世界 ～リコーダーの魅力を楽しむ～ 【習得】	リコーダーの基礎的な奏法を身に付けて、イメージをもって演奏する。	[表現B器楽] ○リコーダー  リコーダー演奏の面白さや難しさをワークシートにまとめて、他者と共有する  <教材> リコーダー 「愛のあいさつ」「シチリアーノ」	曲想にふさわしい音色を追求する	拍と拍子との関係を感じる	
6	リズムを生かして演奏しよう ～サンバのリズムにのって～	リズムや楽器のもつ特徴をいかし、生徒自らサンバのリズムを創作しながらアンサンブルを楽しむ。また、アンサンブルに必要な技能を知る。	[表現B創作] ○リズム創作(サンバ)  グループでサンバのリズムを創作し、互いの演奏を聴き合い、批評活動を行う  <教材> 「風になりたい」	楽器の音色や特徴を生かす	さまざまな民族とリズムとの関係を知る	
7	西洋音楽の世界 ～鑑賞①～	楽器の音色の特徴と表現との関わりを感じ取り、楽曲や演奏を解釈して、それらの価値について理解する。	[鑑賞] ○鑑賞(総譜を見ながら鑑賞)  それぞれが「運命」から知覚し感受した内容から「紹介文」を作成し、発表する。  <教材> 交響曲第5番ハ短調 西洋音楽史概説	管弦楽の重厚な響きの音色		アーティストによる演奏速度の違いを知覚し、感受の違いを感じる

音楽を形づくっている要素					評価規準例			
旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>順次進行と跳躍進行を理解し、違いを感じ取る</p>		<p>強弱記号を理解し、表現に生かす</p>			<p>二部合唱の良さに関心を持ち、シンコペーションの特徴を生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>楽曲の音色、リズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、二部合唱による歌唱の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うか表現意図をもっている。</p>	<p>二部合唱の特徴を生かした音楽表現をするために必要な発声、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方などを身に付け、創造的に表している。</p>	
<p>言葉の音の高低に合わせたメロディラインの特徴を理解</p>		<p>歌詞と強弱表現との関わりについて理解し、表現に生かす</p>	<p>音楽の組み立て方に関心を持ち、二部形式について知る</p>		<p>曲想と歌詞の内容、楽曲の背景との関わりに関心を持ち、それらを生かして歌うことに主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>速度、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて、どのように歌うか表現意図をもっている。</p>	<p>曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて、イメージをもって音楽表現をするために、必要な歌唱の技能を身に付け、創造的に表している。</p>	
<p>旋律と音階との関係について興味をもつ</p>					<p>リコーダーの基礎的な奏法を身に付け、それらを生かして演奏することに興味を持ち、主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、リコーダーの奏法の特徴を生かして音楽表現を工夫し、どのように演奏するか表現意図をもっている。</p>	<p>リコーダーの奏法やその特徴を生かして音楽表現をするために、必要な器楽の技能を身に付け、創造的に表している。</p>	
	<p>ポリリズムの複雑なリズムから生まれる音楽の面白さを味わう</p>				<p>音楽におけるリズムの働きに関心を持ち、リズムの働きに着目して打楽器演奏する表現活動に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、打楽器演奏の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するか表現意図をもっている。</p>	<p>ポリリズムの音楽に合わせ、打楽器の特徴を生かした音楽表現をするために必要なアンサンブルの基礎的な技能を身に付け、創造的に表している。</p>	
			<p>ソナタ形式と各提示部・展開部・再現部の特徴を知覚・感受する</p>	<p>「運命の動機」が反復、変化されている様子を知覚し、それらがどのように生かされているか感受する</p>	<p>様々な時代の音楽や作曲家の特徴と、その文化的・歴史的背景との関連に関心を持ち、鑑賞することに取り組もうとしている。</p>			<p>音色、速度、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、楽器の音色の特徴と表現の効果との関わりを感じ取って、楽曲を解釈し、それらの価値を考えて音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。</p>

月	題材名	学習の目標	○学習内容等	音楽を形づくっている要素		
				音色	リズム	速度
9	歌唱の世界 ～独唱②～	ドイツ語の言葉の特徴を味わい、芸術的な音楽表現に必要な発声や発語を工夫しながら表情豊かに歌う。	<p>[表現A歌唱] ○独唱</p> <p>それぞれが楽曲から知覚・感受した内容について、他者に説明をし、自分の考えを深める。</p> <p>&lt;教材&gt; ドイツリート「のぼら」</p>	<p>曲想や歌詞の内容、表現したいイメージに合った声の音色</p>		
9	西洋音楽の世界 ～鑑賞②～	曲種による声の音色の特徴と表現との関わりを感じ取り、楽曲や演奏を解釈して、それらの価値について理解する。	<p>[鑑賞] ○鑑賞(声の変遷を意識した鑑賞)</p> <p>それぞれが楽曲から知覚・感受したものを基に比較検討し、それぞれの良さを自分の言葉にしてワークシートにまとめる。</p> <p>&lt;教材&gt; 「グレゴリオ聖歌」「アヴェ・マリア」 オペラ「カルメン」 シャンソン</p>	<p>曲種によって変化する声の音色の違いを感じる</p>	<p>ハバネラのリズムの特徴を知覚・感受し、その表現の効果を感知取る</p>	
10	コード(和音)を生かした創作に挑戦してみよう!	和音の仕組みとコードネームを正しく理解し、三和音の音の豊かさを生かして、創作する。	<p>[表現B創作] ○コード進行に合った旋律の創作</p> <p>それぞれが創作した作品について、どのように意図で創作したのか、自分の言葉でまとめ、説明する。</p> <p>&lt;教材&gt; コードを用いた創作</p>			
11	「私たちの小さな空」 【活用】 ※実践事例1に該当	音楽を形づくっている要素の働きに関心を持ち、仲間と協力し、イメージをもって表現を工夫しながらアンサンブル活動を行う。	<p>[表現B器楽] ○表現を工夫したアンサンブル活動</p> <p>楽曲から表現したいイメージを言葉で表現する。そのイメージのグループで共有し、友達とコミュニケーションを図りながら、アンサンブル活動を行う。</p> <p>&lt;教材&gt; 「小さな空」</p>	<p>表現したいイメージに合った音色やその組み合わせを考え、演奏に生かす</p>		

音楽を形づくっている要素					評価規準例			
旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
作曲家による違いを知覚・感受し、その違いを感じ取る			形式と構成との関係に気が付き、歌唱表現に生かす		曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景、ドイツ語の言葉の特性との関わりに関心を持ち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音色、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、曲想を歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景、ドイツ語の言葉の特性と関わらせて感じ取り、音楽表現を工夫し、どのように歌うか表現意図をもっている。	曲想を歌詞の内容や楽曲の背景、ドイツ語の言葉の特性と関わらせて感じ取り、イメージをもって音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法、読譜の仕方を身に付け、創造的に表している。	
	モノフォニー、ポリフォニー、ホモフォニーなどの音の組み合わせについて特徴を感じる				様々な時代の音楽や作曲者の特徴と、その文化的・歴史的背景との関連に関心を持ち、鑑賞することに主体的に取り組もうとしている。			音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それぞれの楽曲の特徴と表現の効果との関わりを感じ取って楽曲を解釈し、それらの価値を考えて音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
コードの響きや流れを味わって、それに合う旋律を作る	和音と仕組みとその音の特徴を感じる			「動機」を反復、変化などの構成原理を発展させて、旋律を作成する	和音や和声の構成を生かして、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	和音や和声の構成を生かして、イメージをもって音楽をつくる技術を身に付け、創造的に表している。	
表現したいイメージから、それに合う旋律の表工演奏をし、演奏にかす。	表現したいイメージに合ったハーモニーや対旋律を創作して、演奏に取り入れる。	表現したいイメージに合った強弱表現を工夫する。			音楽を形づくっている要素の働きに関心を持ち、仲間と協力しながら、イメージをもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	音色、旋律、強弱、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、楽器の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	音色、旋律、強弱、テクスチャの特徴や雰囲気を意識し、イメージをもった音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。	

月	題材名	学習の目標	○学習内容等	音楽を形づくっている要素		
				音色	リズム	速度
12	混声合唱の魅力	合唱活動に関心をもち、声部の役割を意識し、曲想や歌詞の内容を理解し、全体の調和や表現を工夫して合唱をする。	<p>[表現A歌唱]</p> <p>○混声三部・四部合唱</p> <p>それぞれが楽曲から知覚・感受した内容について、他者とコミュニケーションを図りながら共有し、演奏に生かす。</p> <p>&lt;教材&gt; 「春に」「はるかな友に」</p>	混声合唱にふさわしい豊かな響きのある歌声		
1	民族音楽の世界 ～日本の音・アジアの音～ 【探究】	日本およびアジアの伝統音楽を自ら選び、その種類と特徴を理解して鑑賞し、ポスターを作って他者へ紹介する。	<p>[鑑賞]</p> <p>○鑑賞(視聴覚教材を使った鑑賞)</p> <p>それぞれが楽曲から知覚・感受した内容について、自分の言葉でまとめ、A4サイズのポスターにして、地域に発表する。</p> <p>&lt;教材&gt; 「アジアの民族音楽」</p>	楽曲によって変化する音色の違いや表現上の効果を感じ取る		それぞれの楽曲がもつ特徴の違いや表現上の効果を感じ取る
2	舞台音楽の世界 ～ミュージカルの魅力～	ミュージカルの特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもち、作品を味わいながら歌う。	<p>[表現A歌唱]</p> <p>○斉唱・二部合唱</p> <p>それぞれが表現したいイメージを楽曲から知覚・感受した内容について、他者とコミュニケーションを図りながら共有し、演奏に生かす。</p> <p>&lt;教材&gt; 「Tonight」 「Oh Happy Day」</p>			
3	コンサートの醍醐味 【探究】	1年間取り扱った教材や鑑賞した教材などから自らが選んだ楽曲について、その音楽的特徴や文化的・歴史的背景をまとめたり、演奏発表を行う。	<p>[表現A歌唱・B器楽・創作]</p> <p>それぞれが発表する作品について、どういう意図で創意工夫したのか、自分の言葉で発表する。また、コンサートに向けて取り組み方法の構想を立て、評価・改善する。</p> <p>&lt;教材&gt; 1年間取り扱った教材</p>			

音楽を形づくっている要素					評価規準例			
旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	各声部の役割を理解し、各声部の特徴を生かした表現を工夫する	曲想と歌詞の内容に合った強弱表現			声を合わせる活動に関心を持ち、それぞれ声部の役割を生かして歌うことに主体的に取り組もうとしている	音色、テクスチャ、強弱などを知覚し、それらの働きを感受しながら、曲想を歌詞の内容やそれぞれの声部の役割を生かして音楽表現を工夫し、どのように声を合わせるか表現意図をもっている。	曲想を歌詞の内容とかかわらせて感じ取り、イメージをもって声を合わせた音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付け、創造的に表している。	
	我が国及び外国で見られる特徴的な音（ヘテロフォニー）の特徴を味わう				声や楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。			音色、速度、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、我が国やアジアの伝統音楽に対する特徴を理解し、それぞれのよさや美しさ、固有の価値を創造的に味わって聴いている。
	曲想や内容を知覚し、イメージをもって歌唱する	曲想や内容を知覚し、表現を工夫する			ミュージカルの音楽の特徴を理解し、関心をもって、イメージをもって歌うことに主体的に取り組もうとしている。	旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、曲想をミュージカルの内容と関わらせて感じ取り、どのように歌うか表現意図をもっている。	曲想をミュージカル音楽の特徴と関わらせて感じ取り、イメージをもって歌唱表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>これまで学習した「音楽を形づくっている要素」を意図的に活用し、それぞれが選んだ表現方法で発表する。</p> </div>					各自が選択した楽曲について、楽曲の特徴や雰囲気、楽器の音色や奏法、演奏形態などを生かして表現することに主体的に取り組もうとしている。また、鑑賞曲を紹介しようとしている。	各自が選曲した楽曲について、楽曲の特徴や雰囲気、楽器の音色や奏法、演奏形態などを生かして表現を工夫して、どのように歌ったり、演奏したり、創作したりすることに表現意図をもっている。	音楽表現をするために必要な歌唱や楽器、創作の技術を身に付け、創造的に表している。	

### 3 「思考力・判断力・表現力」の育成を意図的に図るための実践事例

#### (1) 実践事例 1

本事例は、「V 研究内容 2. 「思考力・判断力・表現力」の育成を意図的に図るための年間指導計画作成例」で作成した年間指導計画と関連させて実施した実践事例である。本題材である「わたしたちが表現する『小さな空』」は、器楽活動に留まらず、楽曲にふさわしい音色の表現を楽器やその音素材、それらの組み合わせを生かして、イメージをもって仲間と工夫をしたり、部分的に創作活動をしたりする内容である。その際、生徒同時で音色や部分創作する際に話し合いのできる場を設け言語活動も促している。最後に成果を発表し、互いの演奏の特徴や良さを味わうことを目標とした。

科目名	音楽 I	学年	1 学年
-----	------	----	------

ア 題材名 「わたしたちが表現する『小さな空』」

#### イ 題材の目標

- (ア) 音楽を形づくっている要素の働きに関心を持ち、仲間と協力し、イメージをもって表現を工夫しながらアンサンブル活動を行う。
- (イ) 互いの演奏を聴き合いながら、その演奏の特徴や良さを味わう。

#### ウ 音楽を形づくっている要素と既習事項との関連

要素	本題材での学習内容	既習事項
音色	表現したいイメージに合った音色やその組み合わせを考え、演奏に生かす	「手紙」「愛のあいさつ」など声や楽器の音色の特徴に注目して経験
旋律	表現したいイメージから、それに合う旋律の表現を工夫し演奏に生かす	「O' sole mio」で行った言葉の高低に合わせたメロディラインの歌い方
強弱	表現したいイメージに合った強弱表現の工夫	「O' sole mio」「浜辺の歌」で行った強弱記号を生かした歌唱の工夫
テクスチャ	表現したいイメージから、それに合うハーモニーや対旋律を創作して、演奏に取り入れる	コードを生かした創作活動の経験

#### エ 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
<p>① 音楽を形づくっている要素の働きに関心を持ち、仲間と協力しながら、イメージをもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② 楽器の音色や奏法の特徴に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 音色、旋律、強弱、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、楽器の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p>	<p>① 音色、旋律、強弱、テクスチャの特徴や雰囲気を意識し、イメージをもった音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。</p>



オ 題材の指導計画と評価計画（全5時間扱い）

次	時	◆ねらい	○学習内容	・学習活動	評価規準(評価方法)
第1次	◆楽曲から表現したいイメージを言葉で表現する。				
	1		○楽曲について知る。 ・「小さな空」を鑑賞する。旋律を歌詞で歌唱する。 ・歌詞の内容を理解し、表現を工夫して歌う。		【関－①器楽】 (活動観察) (ワークシート)
2		○グループ活動① ・どのように表現を工夫したいか、それぞれ自分の意見を楽譜に書き込む。 ・それぞれが書き込んだ内容についてグループで話し合い、まとめた意見を楽譜に書き込む。 ○鑑賞 ・アレンジが違う「小さな空」を鑑賞し、その違いに気付く。			【関－②器楽】 【創－①器楽】 (活動観察) (ワークシート)
第2次	◆音素材やその組み合わせを生かしながら表現を工夫し、楽曲を完成させる。				
	3・4(本時)		○グループ活動② ・話し合った内容について、そのイメージに合った楽器・音素材を選び、表現を工夫しながら練習をする。 ・1回目と2回目の「いたずらがすぎて～」からの表現について、同じ歌詞でもニュアンスが変わることに気付き、表現に工夫をする。 ○グループ活動③ ・演奏の完成を目指し、練習を行う。 ・グループごとに表現で工夫した内容を楽譜にまとめる。		【創－①器楽】 【技－①器楽】 (活動観察) (ワークシート)
第3次	◆仲間と協力し、楽曲を完成させる。				
	5		○発表会 ・グループごとに練習の成果を発表する。 ・表現の工夫をまとめ、書き込んだ楽譜を基にそれぞれのグループの発表を鑑賞し、演奏の特徴や良さを味わう。		【関－②器楽】 【技－①器楽】 (活動観察) (ワークシート)

カ 本時（第4時／全5時間中）

(ア) 本時のねらい

音楽の形づくっている要素の働きを生かしながら、表現を工夫し楽曲を完成させる。

(イ) 本時の展開 音楽を形づくっている要素：「音色」「旋律」「強弱」「テクスチャ」

時間	具体的な学習内容	指導上の留意点	評価の観点と方法
5分 導入	○今日の学習内容を知る。 ・学習内容・目標をワークシートに記入する。	・ワークシートに本時の活動目標・活動内容を記入させる。	【関－①器楽】 (活動観察) (ワークシート)
20分 展開①	○グループ練習をする。 ・前回の活動を振り返り、改善する。 ・発表会に向けて作品を完成させる。	・グループで話し合ったイメージに適した奏法や強弱の付け方、表現の工夫などについてアドバイスをを行う。	【創－①器楽】 【技－①器楽】 (活動観察) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">表現力</span>
20分 展開②	○発表会の準備をする。 ・表現した内容を楽譜にまとめる。 ・楽譜の提出	・音楽的用語に拘らず、生徒の素直な言葉や表現を大切に、これまでの活動や生徒の発言から、生徒の意図や表現したい内容をくみ取ったアドバイスをを行う。	【創－①器楽】 (活動観察) (楽譜) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考力・判断力</span>
5分 まとめ	○本時の成果をまとめる。 ・本時の内容を振り返り、次時の予定を知る。 ○終わりの挨拶をする。	・今日の成果をもとに、次回の課題や完成へのアドバイスを伝える。	【関－①器楽】 (活動観察) (ワークシート)

## キ 本時の振り返り

(ア) グループ活動を行うことで、生徒が主体的に授業に取り組み、グループの中で互いにコミュニケーションを図りながら、練習を進めることができた。

仲間と一緒に活動することで、お互いに演奏方法を教え合ったり、リーダーを中心に協力し合ったりしながら練習を進めるなど、楽器演奏を苦手とする生徒であっても意欲的に授業に取り組むことができた。

(イ) 音楽を形づくっている要素の中でも「音色」や「強弱」については、これまでの学習経験を生かして積極的に表現の工夫に生かそうとする生徒が多く、実際、演奏の中でもその工夫が見られた。一方でハーモニーをつけたり、対旋律を創作したりするといった創作的な部分にまでは、なかなか発展することができなかった。

## ク 本時の成果と課題

(ア) 生徒にとっては馴染みのない楽曲であったものの、生徒なりにこれまでの学習経験を生かして、歌詞や旋律などを手掛かりに、自分の思いや表現したいイメージを「自分の言葉」を使って楽譜に書き込む作業に取り組んでいた。その結果、自己の思いや表現したいイメージが言語化され、その言語化する過程の中で「思考力・判断力・表現力」を高めることができた。また、それぞれが表現したいイメージをグループで共有し、一つにまとめ、自分たちの演奏に生かしていくことで、仲間と共にコミュニケーションが図られた。

生徒のワークシートからは、「一人一人の表現の工夫が知れてなるほど!と思ったことがたくさんあった」「グループの人の意見を聞いて、新しい発見がたくさんあって楽しかった」などがあり、音楽を形づくっている要素の視点などを活用した言語活動を行うことで、「ひとつの音楽」を作り上げ、音楽活動の楽しさ・喜びを感じ取ったのではないだろうかと考える。

(イ) 生徒自らが自発的に旋律の動きに合わせて体を動かしたり、強弱を感じ取って、手で弧を描きながら強弱を付けて歌ったり、自分の演奏に取り入れたりするなど、年間指導計画に基づき、「音楽を形づくっている要素」の学習活動を重ねる中で、生徒にも変化が現れた。今回の授業においても、グループでの話し合いの場面やそれぞれの練習の場面においても、このように生徒自らが「思考・判断・表現」し、仲間とともに演奏を完成させようと努力する姿が見られた。

しかし、「音色」「強弱」については生徒も比較的、知覚・感受しやすく、自分の演奏にも生かすことができたものの、「旋律」や「和声」「テクスチャ」までは、知覚・感受はしてもどう表現していいか分からず、その結果、演奏の中にもうまく生かすことができなかった。「音楽を形づくっている要素」には、生徒にとって把握しやすいもの、把握しにくいものがあることが改めて確認でき、その点が課題となると感じた。

教員が、生徒の小中学校を含めたこれまでの学習経験等をよく把握し、「音楽を形づくっている要素」についてもより意図的・系統的に指導していき、活動領域も一つに偏ることなく幅広い音楽活動を通して積極的に指導していくことが課題である。その上で、今回作成した年間指導計画においても更に見直しを図られていくべきであると考えた。

(2) 実践事例2

音楽活動をしている中に「思考力・判断力・表現力」を育成する場面を設定した事例

科目名	音楽 I	学年	1 学年
-----	------	----	------

ア 題材名 A 表現 (1) 歌唱 「『第九』に挑戦しよう」

イ 題材の目標

- (ア) クラシック音楽に関心を持ち、学習に主体的に取り組む。
- (イ) 音楽を形づくっている要素を知覚し、これらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受して表現を工夫しながら合唱する。
- (ウ) 合唱に適した発声を意識して、響き豊かな声で歌唱する。

ウ 使用教材 楽譜 ベートーヴェン作曲 交響曲第九番合唱終曲 普及版「歓喜の歌（原語カナ付）」（音楽之友社）、合唱練習用CD（ショパン）

※今回の実践事例は、音楽之友社「歓喜の歌」の楽譜に則って実施した。

DVD 「交響曲第九番ニ短調作品 125 合唱付き」（ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 ベルリンフィルハーモニー管弦楽団）

エ 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① 楽曲に興味を持ち、合唱に適した発声、ドイツ語の発音等の表現に意欲的に取り組もうとしている。 ② 作曲家の表現意図を感じ取ろうとし、表現豊かに合唱しようとしている。	① 作曲家の表現意図を踏まえて、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、感受している。 ② ハーモニーの豊かさや各声部の一体感を感じ取り、合唱表現を工夫している。	① 曲想を歌詞や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって音楽表現をするために必要な発声、ドイツ語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付け、創造的に表している。 ② 和音の流れや各声部の一体感に留意し、適切な音色や調和のとれた表現をすることができる。

オ 題材の指導計画と評価計画（12 時間扱い）

次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準(評価方法)
第1次		◆クラシック音楽に親しむ	
	1	○楽曲について知る ・「第九」カラヤン指揮、ベルリンフィルの演奏を鑑賞する。 ・歌詞の大意を理解する。	【関一①②】 (観察) (問答)
第2次		◆作曲家の表現意図をふまえて、音楽を形づくっている要素の働きを知覚し、表現を工夫する。	
	2	○前半部分のパート練習 パートごとに合唱練習用CDやピアノを使用して譜読みをする。	【関一①】 【創一①②】
	3	・ドイツ語の単語、歌詞の意味を理解する。 ・合唱表現にふさわしい発声法に注意しながら歌唱する。	(観察)
	4	・ドイツ語の発音(子音の強調、巻き舌、ウムラウト等)に注意して歌唱する。	(ワークシート)

	5 6 (本時) 7	○中間、後半部分のパート練習 パートごとに合唱練習用CDやピアノを使用して譜読みをする。 ・ドイツ語の単語、歌詞の意味を理解する。 ・合唱表現にふさわしい発声法に注意しながら歌唱する。 ・ドイツ語の発音(子音の強調、巻き舌、ウムラウト等)に注意して歌唱する。 ・「構成」「強弱」の要素を知覚・感受して、楽譜で確認する。	
第3次	◆意見を出し合いながら、音楽表現を創意工夫させる。		
	8	○全体練習 ・合唱表現にふさわしい発声法に注意しながら歌唱する。	【関一①②】 【創一①②】 (観察) (ワークシート)
	9	・正確な音程とハーモニー、音色、発音を工夫し音楽表現を深める。	
10	・作曲者の表現意図などの既習内容を生かして、指揮者を中心に音楽表現を創意工夫する。		
第4次	◆意見を出し合いながら表現の工夫をし、楽曲を完成させる。		
	11	○実技試験 ア・カベラ、4重唱による歌唱試験を行う。	【関一②】 【創一②】 【技一②】 (実技試験)
	12	○全体合唱の録音&録画をする。	
	○他クラスの演奏の録音&録画を鑑賞する。		

## カ 学習指導の展開(第6時)

### (ア) 本時の目標

- ・音楽を形づくっている要素(構成、強弱)に気が付き、その作曲家の表現意図を感じ取って、表現豊かに合唱する。
- ・音程、リズム、発音に気を付けて、曲想に合った合唱をする。

### (イ) 本時の学習指導(6/12時間)

音楽を形づくっている要素:「構成」「強弱」

時間	具体的な学習内容	指導上の留意点	評価の観点と方法
導入 5分	・パートリーダーは楽譜を配布する。 ・本時の授業内容、目標を知る。	・本時の内容、目標を明確化する。	
展開 ① 10分	・音源を聞いて、「構成」「強弱」の要素を見付ける。 ・ユニゾン(構成)について知る。 ・なぜユニゾンで作曲されているのか考える。 ・歌詞の意味を確認する。 ・ユニゾンで合唱する箇所になぜ、強弱「P」(弱く)の指示が入っているのかグループで考えて、発表する。 ・今日の練習箇所(巻き舌、子音(t, d)の箇所を色分けする。 ・リズムを確認する。	・今日の練習箇所がユニゾンであることに気付かせる。 ・ユニゾンについて説明する。 ・なぜ、この箇所だけユニゾンなのか発問する。 ・歌詞の意味を確認させる。 ・ユニゾンで合唱する箇所になぜ、強弱「P」(弱く)の指示が入っているのかグループで考えさせ、発表させる。 ・巻き舌、子音(t, d)の箇所を確認させる。 ・演奏を始めるタイミングを確認させる。	【関一①】 【創一①】 (問答) 思考力・判断力
展開 ② 25分	・譜読みをする。 ・今日の練習範囲を合唱する。 ・最初から今日の練習範囲までを通して合唱する。	・全パート一緒に今日の練習範囲を指導する。 ・ソプラノからバスまで順次、音を重ねる。 ・全体の流れや入るタイミング、強弱を意識させるためにDVDに合わせて歌わせる。	【創一①②】 (観察) 表現力
まとめ 5分	・本時の振り返り ・パートリーダーは楽譜を回収する。	・本時のまとめ、次時の予告をする。	

## キ 本時の振り返り

- (ア) 本時の授業では、始めに音源を聴かせて音楽の特徴を感受させ、次に実際に譜面を見て生徒に「構成」「強弱」について考えさせた。「構成」では生徒にユニゾン(オクターブの違いがあってもすべての音が同じ高さの音)であることに気付かせることができた。また、「強弱」についても、楽曲全体に「f」(強く)や「ff」(とても強く)の指示された箇所が多い中で、このユニゾンの箇所は特徴的な「p」(弱く)であることに生徒自身が気付くことができた。
- (イ) 生徒の「思考力・判断力・表現力」を高めるために授業で取り上げた「ユニゾン」の指導では、楽曲全体に「f」や「ff」が多く使用されている中で、この指示された箇所の強弱記号がなぜ「p」なのかを話し合わせた。その結果、生徒からは「今までffばかりだったから、pでちょっと休憩したかったのではないか」「pの次のffを際立たせたいから、最初pなのではないか」といった意見が出るなど、これまでの音楽の学習経験を生かした回答をし、生徒の言葉で表現することができた。
- (ウ) 他者の意見と自分の意見をボールペンで色分けして楽譜に記入させて、「楽譜=ワークシート」にしたことで、楽譜を開いた際に、他者の意見と自分の意見が瞬時に分かり、比較することができるという視覚的効果が得られた。

## ク 本時の成果と課題

ベートーヴェン作曲の交響曲第九番は、難易度が高い合唱曲であるため、歌唱練習の時間を十分に確保した。また、今回、学校の周年行事の中で「第九」をプロの指揮者やオーケストラ、ソリストと共演する機会もあったため、原調、原語唱で取り組んだ。音楽表現の創意工夫をさせるため、楽譜から読み取れる意見や、自分なりの工夫、既習事項を踏まえた工夫等を直接楽譜に記入させる学習活動を行った。

その結果、生徒がスコアをよく見るようになり、自らスコアリーディングするなど、生徒の合唱に取り組む意欲の高まりを感じることができた。生涯に渡り音楽を愛好する気持ちが高まったのではないかと考える。

合唱活動の場面において、「思考力・判断力・表現力」を育むために、グループでの話し合いの場を設けた。練習時間を確保するために、短時間で話し合いをさせた結果、生徒が自由な雰囲気の中で積極的に意見を出し合うことができた。更に生徒が出し合った意見を色分けして直接楽譜に記入させたことで、自分の意見と他者の意見を瞬時に読み取ることができる視覚的効果も得られた。本事例では練習時間を少しでも多く確保するために、ワークシートを作成するのではなく、「思考・判断」したことを文字で表現して楽譜上に書かせることとした。生徒の発言が文字として残されるため、評価方法も問答法だけでなく、ワークシートに準じた資料として評価に生かすこともできた。本事例から日々の授業において、教員が時間をかけてワークシートを作成しなくても、工夫次第で生徒に「思考・判断・表現」させる授業を展開することが可能であることが分かった。

課題としては、グループで話し合わせその結果を発表させたことで、自分の考えを言葉で表現することはできたが、その音楽的な表現意図が歌唱表現に生かせるようにすることである。

(3) 実践事例3

題材全体を通して「思考力・判断力・表現力」を育成する場面が意図された事例

科目名	音楽概論(音楽Ⅰ)	年次	4年次
-----	-----------	----	-----

ア 題材名 「音楽鑑賞の楽しみ」

イ 題材の目標

- (ア) 速度や強弱、楽器の音色などの表現上の効果や作曲者の作曲上の特徴、アーティストによる演奏表現の違いなどに関心をもつ。
- (イ) 学習を通して獲得した知識や理解した内容、体験に基づいた経験などを根拠にして音楽に対する魅力を言葉にして表現する。
- (ウ) 音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、作曲者の作曲上の特徴、アーティストによる演奏表現の違いなどを理解して、それらの価値を考え、よさや美しさを創造的に味わって鑑賞する。

ウ 教材 [主教材] ベートーヴェン作曲 交響曲第5番ハ短調 作品67

CD「交響曲第5番ハ短調作品67」

- (ア) ブレーズ指揮 ニューフィルハーモニー管弦楽団
- (イ) カラヤン指揮 ベルリンフィルハーモニー管弦楽団
- (ウ) ノリントン指揮 ロンドン クラシカルプレーヤーズ

オ 題材の指導計画と評価計画（全4時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「交響曲第5番ハ短調 作品67」の作品に興味を持ち、管弦楽の楽譜の仕組みについて知る。</li> <li>・マンガの読書を通してベートーヴェンの人物と生涯を知る。</li> <li>・「交響曲第5番ハ短調 作品67」第1楽章を聴き、イメージできる言葉や絵、擬音語などを書く。</li> <li>・「交響曲第5番ハ短調 作品67」を写譜し、気が付いたことを記入する。</li> <li>・視覚的に表現された「ファンタジア2000」の「交響曲第5番ハ短調 作品67」を鑑賞する。</li> </ul>	【鑑-①】 (ワークシート) (問答)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「交響曲第5番ハ短調作67」作曲上の特徴を理解し、楽器の音色や調性と表現上の効果との関わりを感じ取る。</li> <li>○「タイトル」から得られる音楽的な情報を整理する。</li> <li>・「運命の動機」が積み重なってメロディとなる仕組みを、手拍子のリズム打ちで体験する。</li> <li>・「第1主題」をティンパニで打ち、リズムを体験する。</li> <li>○クラシック音楽と「楽譜」との関係について知る。</li> </ul>	
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ソナタ形式について理解する。</li> <li>◆アーティストによる音楽表現の違いについて味わい、音楽表現の多様性について理解する。「交響曲第5番ハ短調 作品67」の作品に興味を持ち、管弦楽の楽譜の仕組みについて知る。</li> <li>○「形式」による音楽の「統一」と「変化」について各部の役割を、鑑賞を通して気が付く。</li> <li>○強弱記号、発想記号などの意味を知る。</li> <li>○「第1主題」をティンパニで打って、演奏者によって音の強弱やニュアンスが違うことを体験して、演奏者による違いについて関心をもつ。</li> </ul>	【関-①】 (ワークシート) (問答) (表現)
第4時(本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆プロのアーティストによる演奏表現の違いを体感し味わう。</li> <li>◆作品の良さや美しさ、表現の多様さなど価値を紹介する「紹介文」を学習した内容を基に作成する。</li> <li>○それぞれアーティストの表現の違いに気が付く。</li> <li>○楽譜の「不完全性」を理解し、表現する「可能性」について気が付く。</li> <li>・これまでの学習に基づき、「紹介文」で使用するキーワードを□(四角)で囲う。</li> <li>・「紹介文」を作成する。</li> <li>・「交響曲第5番ハ短調 作品67」を鑑賞する。</li> </ul>	【鑑-①】 (ワークシート)(問答) 【鑑-②】 (ワークシート) (問答)(質問紙)

オ 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
① 速度や強弱、楽器の音色などの表現上の効果や作曲者の表現上の特徴、アーティストによる演奏表現の違いなどに関心を持ち、鑑賞する活動に主体的に取り組もうとしている。	① 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、速度や強弱、楽器の音色など表現上の効果との関わりを感じ取り、作曲者の表現上の特徴、アーティストによる演奏表現の違いなどを理解して、それらの価値を考え、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聞いている。 ② 学習を通して獲得した知識や理解した内容、体験に基づき、それらを根拠にして音楽に対する魅力を言葉にする。

カ 学習指導の展開(第4時)

(ア) 本時の目標

- ・プロのアーティストによる演奏表現の違いを体感し味わう。
- ・学習した内容を基に、作品の良さや美しさ、表現の多様さなどの価値を紹介する「紹介文」を作成する。

(イ) 本時の展開 (4 / 4時間)

音楽を形づくっている要素: 「速度」「強弱」「音色」

時間	具体的な学習内容	指導上の留意点	評価の観点と方法
導入 3分	○ 本時の学習目標を確認する。	・出欠の確認、プリントの準備状況など学習する体制が整っているか確認する。	
展開 ① 10分	○ 楽譜の「不完全さ」について知る。 ティンパニを打つ体験に基づいて、ワークシート(3)の問題の穴埋めを行う。・教員の回答に聞きき、補足説明で気が付いたことをワークシートに書き込む。	・前時の体験が言葉で整理され理解できているか、机間指導をして確認をする。	
展開 ② 10分	○ アーティストによる演奏表現の違いを、視点をもって体感し味わう。	・それぞれのアーティストについて次の点について気が付いたことを記入させる。 (1) 速度(速度) (2) 強弱(強弱) (3) 音色(音色) (4) その他・感想 ・アーティストが変わる度に主旋律をピアノで演奏して特色をつかみやすくする。	【鑑-①】 思考力・判断力 (ワークシート) (問答)
展開 ③ 7分	○ 「紹介文」の作成(1) 「紹介文」について知る。また、これまでの学習に基づき、ワークシートの中から、「紹介文」で使用するキーワードを□で囲う。	・友達や先生方に「その曲を聞いてみたい」と思われる文章を作る。 ・友達同士の意見交換も可とする。	【鑑-②】 思考力・判断力 (ワークシート) (問答) (質問紙)
展開 ④ 10分	○ 「紹介文」の作成(2) 作品の良さや美しさ、表現の多様さなどを紹介する「紹介文」を学習した内容を基に作成する。	・紹介文を作成する。 ◇必要な生徒には教員の示す板書に基づいて、1行ずつ紹介文を作成させていく。 ◇板書計画(観点) ○ベートーヴェンについて、時代 ○音楽の良さや美しさ、イメージ ○音楽を形づくっている要素とその働き ○アーティストによる違い・楽譜との関連	【鑑-②】 表現力 (ワークシート) (問答) (質問紙)
まとめ 5分	○ 本時の学習のまとめとアンケート作成 「交響曲第5番ハ短調 作品 67」を鑑賞する。	・アンケートを最後まで書かせてから帰宅させる。	

## キ 本時の振り返り

- (ア) 習得させたい基礎的・基本的な学習内容を網羅したワークシートに作成し、生徒が学ぶべき点を踏まえた学習を行った。これによって思考したり、判断したり、表現するために必要な知識や情報が整理された。
- (イ) 既習事項の音符の長さ、高さ、最初の八分休符の扱い、表現記号、強弱記号などを活用し、ティンパニで「運命の動機」を演奏する体験を通して、自己のイメージにあった表現方法を思考し、判断して、工夫した表現ができた。

### 【生徒がティンパニを演奏する際に工夫した例】

- ア 元気よく、音で「生」を表現するために…少し遅めにして表現してみた。
- イ 緊張し、圧迫されている感じを表現するために…最後を少しねばって強く打ってみた。
- ウ 重さを表現するために…最初の動機をかなり早くし、二度目は遅くして伝えるようにした。

- (ウ) 紹介文を作成前段階で、紹介文で活用したいキーワードをワークシートの中から判断させて選ばせたが、紹介文をよりよく作成しようと思っている姿が見られた。通常の音楽鑑賞の感想文では、多くの生徒が30文字程度の感想しか書くことができないが、本学習で紹介文は、17名の生徒中13名(76.5%)が何らかの形で100文字以上の紹介文を完成させた。

### 【生徒が選んだキーワードの例】

速さ、強弱、音色、精緻に設計、解釈、動機(運命の動機)、構成力、ベートーヴェン など

- (エ) 音楽を形づくっている要素に気が付かせるために、アーティストによる表現方法の違いに注目させた。それぞれのアーティストの音の質感や表現方法、演奏技法まで興味をもち、意欲的な鑑賞をすることができていた。それらを紹介文に盛り込むなども見られた。その際、アーティストの演奏の違いと音楽を形づくっている要素を関連させて聴き、紹介文を作成するなど、同じ楽曲を繰り返して聴くことで自分の価値観が形成され、よさを判断できていた。習得した学習内容の中で、紹介文を書く際に本人がキーワードとしたものを□で囲う。

### 【生徒の「紹介文」の例】

- ア とっても面白い曲です。どう面白いのかと言ったら、特徴的な「ダダダダーン」の部分、聞いた本人がどのように**解釈**するのかによります。「ダダダダーン」を聞いただけで「**運命**」となると思いますが、指揮者によって演奏の仕方も、音色も速さもまった違う音楽に。特に「**暗から明**」へと変わる**構成**を持った**交響曲**が、ベートーヴェンの人生、強いメッセージがとても分かりやすく伝わってきました。みなさんはどのような感想を持ちますか?
- イ 偉大な作曲家のベートーヴェン。「運命」は演奏する人によって違う**音色**があります。自分的にはノリントンという指揮者さんが演奏している音が好きです。なぜかというノリントンさんはバイオリンのビブラートがなくあっさりとして優しい感じが良いところです。「運命」という曲は難しい曲ですが、色々な指揮者さんの演奏を聴いていると、違いが分かってきます。音色、音の**強弱**、**速さ**などがさまざま。ぜひ、聴いてみてください。

- (オ) 個別の問答により学習状況の確認だけでなく、本人が思考したり、判断したりした事項を確認しながら適宜評価を与えた結果、白紙でまったく書くことができなかった生徒が、学習している方向性を確認し、自信を持って意欲的に回答をすることができていた。質問紙上では12人の回答のうち11人(91.7%)の生徒が、「意欲が増した」と回答している。
- (カ) 質問紙の回答では、17人すべて(100%)の生徒が考えたり、表現を工夫したりしながら鑑賞する学習をもっとやりたいと答え、意欲的な様子が見られた。



## ク 本時の成果と課題

「思考力・判断力・表現力」を育成する場面が題材全体で意図された事例として本授業を実践した。まず習得させたい基礎的、基本的な学習内容を学習して思考したり、判断したり、表現するために必要な知識や情報が整理され、その中から紹介文で活用したいキーワードをワークシートの中から判断させて選ばせ、紹介文を作成させた。アーティストによる表現方法の違いに注目させることにより、比較の中で音楽を形づくっている要素を気が付かせることができ、生徒自らが言語化することができた。また、適宜、問答による評価を行うことで、学習する方向が修正され、すべての生徒が意欲的に学習に臨むことができた。

本時の課題として、年間指導計画作成、学習指導案、ワークシートの開発など一つの題材に十分な時間が必要となることが挙げられる。全ての題材の授業がこの事例3のような形式が望ましいともいえるが、この形式で実践するにはある程度の期間が必要である。

## VI 研究の成果

本研究では、生涯にわたり音楽を愛好する心情の育成を図るための授業の在り方として、学習活動を支える「思考力・判断力・表現力」を育むためにどのような指導や評価の工夫をすることが必要なのか研究をし、検証授業を行った。具体的な成果は、以下の通りである。

- 1 学習指導計画を作成する段階で、活動が「習得」「活用」「探究」のどの段階であるかを位置付けることで「思考力・判断力・表現力」の育成を意図的に図ることができると考えた。

「活用段階」として位置付けた実践事例1の中では、これまでの学習経験を生かして「歌詞」や「旋律」を手掛かり（習得段階）として、「思考・判断・表現」しながら自分の思いや表現したいイメージを「自分の言葉」を使って楽譜に書き込むことができていた。

- 2 年間指導計画の中で、音楽を形づくっている要素を計画的に配置し、指導することで、生徒が新たに習得した「知識・理解」や「技能」が生徒の知識体系の中に組み込まれ、それらを活用して創造的に「思考・判断・表現」して課題解決できるようになると考えた。

実践事例1では、「音色」「強弱」については生徒も比較的、知覚・感受しやすく、器楽活動の中でその視点を使って活用していた。

実践事例2では、合唱活動の中に意図的に設定した「思考力・判断力・表現力」を育成する場面を挿入した形であるが、生徒がワークシートに準じた扱いとした楽譜に参加した40人全ての生徒(100%)がこれまでの学習経験を生かした内容を含め何らかの考えを記入することができた。その際、音楽を形づくっている要素をキーワードとすることで、題材を貫く概念が生徒に形成され、学習の転移が進んでいる様子が見られた。

- 3 観点別評価を実施し、評価方法を組み合わせることによって、生徒が思考・判断・表現した学習活動を適切に評価することができ、学習意欲が向上すると考えたが、それについては実践事例3で取り上げた。観点別評価項目を立て、生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成する場面を題材全体で意図する授業とした。授業内に生徒が思考している場面で個別に問答をしたり、思考し、判断した結果をワークシートに書いた内容に適宜助言を与えるなどしたりして評価を与えていった結果、質問紙上ではこのように評価をいろいろな方法で適宜与えられることで12人の回答のうち11人(91.7%)の生徒が、「意欲が増した」と回答している。

また、実践事例3では基礎・基本的な学習内容の習得状況をワークシートで確認して、生徒がそれらを「□」でくくり、思考・判断しながら「紹介文」として表現、まとめていくプロセスが把握できるようにしてあった。そのため学習の取組を観察法で評価するだけでなく、ワークシートからも見取ることができ、評価につながられた。この学習を通して生徒は単に音楽を聴いて書く感想文よりも、いろいろ思考したり判断したりした学習を経て作成した「紹介文」に取り組むことで、肯定的な意見が12人の回答のうち11人(92%)あり、このような学習を通して12人の回答のうち9人(75%)が学習に対する意欲が高まったと回答した。

## VII 今後の課題

### 1 各学校が目指す学力の反映

本研究では年間指導計画を作成したが、この年間指導計画には、各学校が目指す学力観まで反映させられていない。学校によって教科や特別活動等のねらい、内容、進められていく進度も違っている。このように考えていくと「思考力・判断力・表現力」は本来、学校や生徒の実態に応じて定められるべきものである。今後は各学校で作成した「学力スタンダード」などから、その学校が目指す生徒に身に付けさせたい力を明確にし、音楽における年間指導計画作成にも生かしていくことが必要である。

### 2 音楽を形づくっている要素を視点とした授業実践

現段階では、音楽を形づくっている要素を視点とした学習をすべての生徒が既習した事項として授業を計画することはできない。また、その視点の指導が定着しても、経験した学習内容が違うということもある。音楽を形づくっている要素を視点として言語活動を行いながら学習することは、とかく活動中心になりやすい音楽にとって重要な役割を果たす。「言語活動」を活用した学習は、生涯にわたる学習の基盤とつながることが期待されるため、この視点を取り入れた授業づくりを進めていく必要がある。

また、本部会で音楽を形づくっている要素を踏まえた年間指導計画を提示したが、生徒にとって理解しやすいもの、理解しにくいものがあった。そのため音楽を形づくっている要素を視点とした指導の在り方を今後も検討する必要がある。

### 3 評価について

各教科においては、「思考力・判断力・表現力」を育むことを通して、学習指導要領で定められた各教科の目標を達成することが重要である。本研究でもさまざまな評価方法や評価方法の組み合わせで実施した評価の事例を紹介してきたが、本部会に所属する研究員3名の実践であり、極めて評価対象の生徒数が少ない。そのため、この研究成果を若手教員等に還元し、多くの実践例、実践数を積み重ねていく必要がある。

また、今後も生徒が自分で学習した成果を実感させ、学ぶこと自体を肯定的に捉えさせるために評価方法について検討をしていきたい。

## 平成26年度 教育研究員名簿

### 高等学校・芸術（音楽）

学 校 名	課程	職 名	氏 名
都立八王子拓真高等学校	全日制	主幹教諭	末石 忠史
都立江北高等学校	全日制	主任教諭	會田 鮎子
都立上野高等学校	全日制	主任教諭	◎坂東 瞳

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課  
指導主事 片桐 あかね

平成26年度  
教育研究員研究報告書

高等学校・芸術(音楽)

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕  
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 正和商事株式会社